鎌倉市川喜多映画記念館　令和8年度第1四半期実績評価

1　利用の承認等に関する業務（第1号）

⑴来館者の動向について

・この四半期の来館者数は4,906人で、前年度の同四半期来館者数4,683人に対して、223人、約5%の増となった。

・月別来館者数：1,490人（4月）、2,260人（5月）、1,156人（6月）

2　施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務（第2号）

⑴施設・設備の維持管理について

・各種設備の保守・点検、清掃等が適切に実施され、記念館を適切に維持管理している。

⑵資料等の維持管理について

・施設の環境等を考慮しつつ、適正な維持管理が行われている。

3　記念館の事業の企画及び実施に関する業務（第3号）

⑴上映および展示事業について

・展示事業は4月4日から6月14日にかけて、企画展「シネマティック・ジャパン一世界を魅了した日本映画たち」を開催した。世界各国で制作された日本映画の「海外版」ポスターを通して、日本映画がどのように国外で受容されてきたかを辿った。黒澤明をはじめとする巨匠による、アクション、ホラー、特撮、やくざ、アニメーションなど海外で人気の高い日本の多様なジャンル映画を紹介した。会期中は展示鑑賞者向けに参加型企画を実施した。また、6月20日から企画展「アメリカン・シネマの道しるべ」を開催している。数々のアメリカ映画を道しるべに、アメリカの文化や歴史を紐解く。ハリウッド映画の古典的名作からインディペンデント・シネマの重要作まで、それぞれの視点から垣間見えるアメリカの風景を紹介している。

・上映事業は企画展に関連して、海外の映画祭で高く評価された日本映画を上映した。35ミリフィルム映写機を用いた企画展関連上映では「砂の女」、シネマセレクションでは「ヒッチコック珠玉の名作選」3作品が好評で1回平均38名の鑑賞者数となった。ヒッチコック作品は前回の特別展関連上映でも好評だったことから、今回のリピーター獲得に繋がっている。5月1日から6日かけて上映した「GWのシネマセレクション」は3作品を上映し、初日以外はすべて満席となった。6月6日の「愛のコリーダ」特別上映では、平野共余子氏によるトークイベントを行った。ニューヨークの「ジャパン・ソサエティ」で長きにわたり日本映画の上映に携わった経験をもとに海外の観客が日本映画をどう観ていたのかをお話しいただき、当時の様子がよく分かる内容で、参加者の満足度も高かった。

⑵調査、研究及び情報提供について

・調査、研究及び情報提供について、次期展示の調査研究のため、関連施設やゆかりの地等の訪問、情報収集や打ち合わせを行っている。

⑶広報及び宣伝等について、

・広報及び宣伝等について、市広報に企画展示や上映内容などの情報を掲載しており、さらに、市役所本庁舎内のモニターによる広告も利用し、より多くの市民等に向けて利用促進の情報発信を行った。

⑷その他の事業

・5月5日、ダニエル・アギラル氏によるトークイベントを開催した。欧州における日本の大衆娯楽映画の需要史を宣材など紙資料から解説した。

・5月30日、戦前に海外で高く評価された無声映画の名作、「十字路」の活弁・生演奏付き上映は満席になるほど人気であった。

・4月25、5月9日、6月14日、キュレーターによるギャラリートークを実施した。

4　その他市長が定める業務等（第4号）

⑴事務処理

・例月の指定管理業務報告書を決められた期日までに提出した。

⑵事故・苦情対応

・事故や苦情があった際は、内部で情報共有を行い、速やかに市へ報告すると共に対応策を検討している。

・6月3日は大雨、6月27日は台風による影響で臨時休館した。

⑶その他

・旧和辻邸の一般公開（4月11日から12日）及び特別公開（5月2日から4日）を行った。
・4月25日から、近隣文化施設5館（鏑木清方記念美術館、鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館、神奈川県近代美術館 鎌倉別館）とミュージアムめぐりスタンプラリー2026を開始している。
・4月30日、鎌文ネット会議に参加した。
・5月17日、鎌倉芸術館・オープンデイにて開催された「ワクワクミュージアム」内ワークショップ「アニメーションを描こう！」を実施した。
・5月29日、6月13日、鎌倉歴史文化交流館と合同展示解説を実施した。
・6月4日、10日、16日、鏑木清方記念美術館と連携展示解説を実施した。

5　全体評価

・この四半期の来館者数は4,906人で、前年度同四半期の4,683人に比べ、223人、約5%の増となった。特にゴールデンウィーク期間の「GWシネマセレクション」が連日満席に近い盛況となったほか、企画展と連動した質の高い上映プログラムが相乗効果を生み、順調な集客に繋がった。ヒッチコック作品の上映において前回の特別展からのリピーターを確実に獲得できている点は、固定ファンの定着を示すものとして高く評価したい。

・展示事業において、展示ポスターから好きな作品を選んで投票する「来館者参加型企画」を新たに実施した。多くの方に楽しみながら鑑賞いただく工夫が見られ、結果をホームページの「記念館だより」で公開するなど、双方向の情報発信が行われた点は新しい取り組みとして評価できる。今後も来館者の関心を高める企画の継続を期待したい。

・企画展「シネマティック・ジャパン」の期間中、35ミリフィルム映写機を用いた上映を多く行い、好評を得た。一般の映画館では鑑賞機会が極めて少ないフィルム作品をラインナップに組み込めることは当館の大きな強みである。今後もこの希少な設備と専門性を存分に生かし、映画文化の魅力を発信する独自性の高い事業展開を継続していただきたい。

・運営面に関しては、6月の大雨や台風といった自然災害に対し、臨時休館や事業の振替を速やかに判断・実施しており、来館者の安全確保及び中止事業への適切な対応が取られている。施設の維持管理業務についても、日常点検や清掃が計画通りに行われ、市への報告も徹底されており、安定した管理運営体制が維持されている。

※評価の項目は条例第4条第1項の各号に準じる。

鎌倉市川喜多映画記念館　令和8年度第1四半期判定評価

評価の視点	評価判定項目		評価結果	減点
利用の承認等に関する業務（第1号）	利用者対応	利用料金を適切に徴収し、帳簿を作成している。	○	
施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務（第2号）	管理	設備の保守や清掃等を行い、施設を適切に管理している。	○	
	点検	定められた点検について適切に実施している。	○	
	修繕	不具合箇所を放置せず、必要に応じて修繕を実施している。	○	
	資料等管理	常設展示品について適切に管理している。	○	
記念館の事業の企画及び実施に関する業務（第3号）	展示	計画どおりに展覧会を開催している。	○	
	上映	計画どおりに上映を実施している。	○	
	市民参加	市民等が参加して企画する事業を実施している。	○	
	展示及び上映以外の事業	記念館の設置目的を達成するために必要な業務（教育普及活動など）を行っている。	○	
	調査研究	計画どおりに調査及び研究を行い、その成果を公開している。	○	
	周知活動	記念館及び展覧会の周知を積極的に実施している。	○	
	業務内容向上	来館者のニーズを把握し、反映に努めている。	○	
その他市長が定める業務等（第4号）	事務処理	市に対し、定められた期日までに報告書を提出している。	○	
	報告	市との連絡調整を適切に行い、協議を行った事項については確実に実施している。	○	
	トラブル対応	来館者や近隣との間にトラブルが生じた場合、適正な対処をすると同時に、市への報告が適切に行われている。	○	
	危機管理体制	事故、災害時の緊急時の連絡体制整備、対応措置、市への報告が適切に行われている。	○	
	人員体制	事業計画書等に即した適正な人員及び資格者を配置し、人員に対して研修等自己啓発の努力がなされている。	○	
	経理事務	固有の口座を保有し、適正な会計処理を行い、光熱水費等を滞納していない。	○	
	個人情報保護	個人情報の漏えい、滅失等の事故防止対策を講じている。	○	
	法令等遵守	法令・条例等に基づき必要な点検・報告等を行っており、業務上知り得た情報を第三者に漏洩していない。	○	
				0

※評価の視点は条例第4条第1項の各号に準じる。

実施されている場合・・・○　実施されていない場合・・・×　　※×1つにつき5点とする。

特記事項

減額率

減点の合計	減額率
10～15	5%
20～25	10%
30～	20%